



慶應義塾大学ビジネス・スクール

マネージャー五月女理絵の憂鬱

5

— 自信がありすぎる若手と働かないワーキングマザー —

五月女理絵は首のストレッチをしながらパソコン画面から顔を背けた。時計は午後 6 時 10 分を指している。部下は殆ど退社していた。がらんとしたオフィスに数人が残って作業をしている。その中に、先ほどまでの会議で話題に上っていた中菌啓祐の姿を見つけて視線をとめた。中菌は何やら楽しそうに隣の部署の大原満里奈と話している。屈託なく話している中菌は、一見、好青年であることは間違いなかった。しかし中菌は最近の五月女の頭痛の種の一つでもあった。

10

五月女はこの後、6 年先輩の藤堂明子と久しぶりに食事に行く約束をしている。そろそろ仕事を手じまいしないと間に合わない。急いでパソコンの画面を処理すると、机の上を片付け始めた。そして、入社からの習慣にのっとり明日やらなくてはいけないことをメモ帳に箇条書きに書き留めて机に鍵を掛けた。

15

二つの顔を持つ恒仁電機工業

20

五月女理絵は恒仁電機工業株式会社・品質企画部のグループマネージャー（GM）である。都内の大学の工学部を出て修士課程を終えた後に入社した。現在は入社 23 年目であった。制御機器を扱う部門でキャリアを積み GM に昇進した。今の部署は GM として勤務して 2 つめの部署である。

恒仁電機工業の歴史は古く、第一次世界大戦時にまで遡ることができた。業界では名門とされていた。第二次大戦後は研究開発に力を入れ、優れた電機製品を多く世に送り出し社会インフラの分野でめざましく発展していた。1990 年以降、恒仁電機工業は国際競争激化の環境の下、国内外でいく

25

本ケースは法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授 高田朝子がクラス討議の資料とするために作成したものであり、経営の巧拙を例示するものではない。会社名、個人名、および事業についての若干の事実は偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 高田朝子 (2018 年 6 月作成)